

1, 老人福祉事業 記念品交付

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：各地区で開催される敬老会において記念品を配付し、地域住民と共に長寿をお祝いしながら地域ふれあい交流の推進を図る。

内容：実施場所 竹富町全域

実施日 令和3年9月15日～21日

対象者 80歳・85歳・90歳・95歳・100歳以上

事業実績：令和元年度 103名

令和2年度 83名

令和3年度 92名



地区	人数	地区	人数	地区	人数
竹富	13	大富	6	住吉	4
黒島	5	古見	1	祖納	4
小浜	11	美原	2	舟浮	1
細崎	1	船浦	3	白浜	3
豊原	2	上原	7	波照間	17
大原	1	中野	2	南風見苑	5
鳩間	2	新城	2		

○まんだら一茶（竹富島）

○黒糖（小浜島）

○もちきび（波照間島）

○アーサつくだ煮 or しぐれ煮（黒島）

○黒紫米（西表島）



毎年好評である竹富町特産品詰め合わせセット（1,800円相当）を対象者に配布。保育所、園児の協力のもと、子ども達のメッセージ・ぬりえでラッピングが華やかにお祝いすることが出来ました。※各保育所（子ども達）へクレヨンをプレゼント。

2, 児童福祉事業 新入学児童用品交付 【財源：赤い羽根共同募金・寄付金・会費等】



目的：竹富町の次世代を担う子ども達の健やかな成長を地域で支え、児童福祉の向上を図りながら新入生のお祝いをする。

内容：実施場所 竹富町立小中学校
実施日 令和3年4～5月
対象者 竹富町内各小中学校の新入児童生徒

事業実績：

令和元年度	小学1年生	50名	中学一年生	40名
令和2年度	小学1年生	49名	中学一年生	54名



令和3年度

小学1年生へのプレゼント	[サインペン・赤青色鉛筆・消しゴム・液体のり]	49名
中学一年生へのプレゼント	[消しゴム・3色ペン・蛍光マーカー・付箋]	54名



・令和元年からの事業。新型コロナの影響もあり、令和3年度も学校現場と交流が図りづらくありましたが、地域の民生委員児童委員、相談員のあいさつ回りをかねて配布することで、学校と地域の民生委員児童員の皆さんの顔合わせを行うことが出来ました。

3, 児童福祉事業 絵本を通して豊かな未来を 【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：絵本を通して親子の関係性が深まり、普段の生活がより居心地がある居場所づくりとなるよう、ちょっとした素敵な時間を過ごせるヒントや笑顔が見られることを目的とした絵本の読み聞かせを学ぶ。

事業実績：心が育つ EQ 絵本講話

講師 一般社団法人 絵本メンタリング協会

(令和元年度) 日 時：令和元年 5 月 19 日(日)13:00～15:00

場 所：石垣市立図書館 視聴覚室

参加者：保育士、幼稚園教諭、サロンボランティア、
竹富町ファミサポ サポーター、竹富町役場、
竹富町社会福祉協議会職員 その他 総勢 36 名

(令和 2 年度)

【竹 富 島】日 時：令和 2 年 11 月 6 日 (金) 15:30～16:30

場 所：竹富町立竹富保育所

【西表島西部】日 時：令和 2 年 11 月 7 日 (土) 11:00～12:00

場 所：中野わいわいホール

【西表島東部】日 時：令和 2 年 11 月 7 日 (土) 15:30～16:30

場 所：離島振興総合センター ホール

【波 照 間 島】日 時：令和 2 年 11 月 8 日 (日) 11:00～12:00

場 所：波照間複合型福祉施設

参加者：46 名 (3 日間累計)

保護者 18 名、保育園士・幼稚園教諭 10 名、他 2 名

民生委員 4 名、地域ボランティア 7 名、竹社協 5 名

(令和 3 年度)

内 容：令和 3 年度 心が育つ EQ 絵本講話

実施場所：上原小学校 体育館

講 師：一般社団法人 絵本メンタリング協会 代表理事 仲宗根 敦子 氏

絵本 EQ 講師 又吉 るみ子 氏

参 加 者：保育士、幼稚園教諭、上原小学校職員、その他 総勢 23 名



- ・絵本読み聞かせ講話を通して、教諭から普段伝わりにくい部分を講話でより親子時間について伝わるものがあればとして現場の要望に合わせて開催する事になりました。
- ・アンケート結果からは多くの保護者が参加出来るようなクラス懇談会、学推講演会など場を作った開催工夫が必要だとして参加教諭から声があがっていました。
- ・子どもと一緒に参加できるような、気軽に参加しやすい場を各保育所、幼稚園と一緒に企画しながら引き続きコーディネートしていきたいと思います。

[参加者の声]より

- パパが読み聞かせを始めた頃は棒読みでどうなのかなと思いましたが、正解だったとは!!びっくりです。今まで自分がしてきた事に自信を持っていた点、もっともっと気をつけねばならない点が明白に分かりました。何歳になっても、読み聞かせが良いとは!!なるべく何冊でも読んでいきたいと思いました。
- 温かい気持ちになり、明日の絵本は何にしようか楽しみです。
- 絵本がなくとも、密着出来るツールがある事は大切。絵本はきっかけですね。
- エビデンスを知る事が出来たためになった。
- 絵本、読み聞かせが自己肯定感につながるという理由が伝わりました。小学校高学年以上に向けての読み聞かせについてももっと詳しく聞きたいと思いました。
- 仕事柄、絵本の選書等相談されます。時には読み聞かせなんていらなと言われて、上手く読み聞かせの良さを伝える事が出来ない事も多いですが、今日のお話を活かしたいと思います。わが子は大きくなって中々読み聞かせする機会は減っていますが、学校、地域の子ども達に読み聞かせして自分も楽しんでいけたらと思います。
- 時間に間に合わず、30分遅れたのですが、初めから聞きたかったです。もっと退屈だと思っていましたが、とても面白かったです。
- 娘(小4)がいますが、園では子ども達に読み聞かせしていますが、家庭では忙しくしていません。反省…。今日から娘に向き合って時間作っていきたいと思います。
- 読み聞かせに対しての意識が変わりました。今日から始めてみようと思います。ありがとうございました。
- 子連れが多いと思いますので、もっとアットホームな感じがありがたいかなと思いました。子連れだと中々話が頭に入っていきませんでした。
- のんびりの子で絵本にはたくさん色々な面でお世話になっていると思います。今回の先生のお話を聞いてこれからも絵本を読んでいこうと思いました。ありがとうございました。
- 講話の時間帯がもったいなかったです。夕方であれば仕事終わって来られる人が沢山いたと思います。私も三者面談で抜けなきゃいけないので残念でした。次は子どもも沢山参加して読み聞かせしながら講話もして欲しいです。今日はありがとうございました。

4, 児童福祉事業 学童・生徒ボランティア活動普及事業 【財源：赤い羽根共同募金配分金】



目的：町内の小・中学校を「ボランティア活動推進校」として指定し、ボランティア活動や体験学習の機会を提供することにより、児童・生徒の自発性や社会性、町民性が育まれていくことを目指し、児童・生徒のボランティア活動を推進することを目的として実施する。

内容：次の四つの視点を取り入れてボランティア活動に取り組む。「広報・啓発」「調査・研究」「体験学習」「その他目的達成のための必要な活動」も含む。

【4つの視点】

- ①子どもたち自身の自発性、社会性、意欲（楽しんで取り組む）を育む活動
- ②単発的でない、年間を通じた継続性のある活動
- ③年間に取組む各活動のテーマに連続性や一貫性がある
- ④町民活動団体（NPO）や町社協など地域と連携し、地域の課題を共有し、地域づくりを行う視点のある企画

事業実績：

①ボランティア活動推進指定校（2年間）

	1年目	2年目
平成23年度	竹富小中学校	
平成24年度	船浦中学校	竹富小中学校
平成25年度	小浜小中学校	船浦中学校
平成26年度	大原小学校	小浜小中学校
平成27年度	波照間中学校	大原小学校
平成28年度	白浜小学校	波照間中学校
平成29年度	古見小学校	白浜小学校
平成30年度	上原小学校	古見小学校
令和元年度	大原中学校	上原小学校
令和2年度	黒島小中学校	大原中学校
令和3年度	鳩間小中学校	黒島小中学校

当年度予算の範囲内で定額助成とし、2万円コースと3万円コースを設け活動助成金を交付し、学校単位で様々なボランティア活動を計画し、実践しました。

(令和3年度)

学校名	ボランティア活動内容	参加人数
黒島小中学校 (2年目) 3万円	基本毎日 朝のボランティア活動 8:00~8:15 校内・校外の清掃 	全児童生徒 (20名)
	10月~12月末 赤い羽根共同募金の取組 	児童生徒会 (7名)
	11月19日 福祉教室(車いす体験)	4・5年生 (6名)
	12月2日 ビーチクリーン(伊古棧橋) 	全児童生徒 (20名)
	12月7日 来年度の豊年祭に向けての五穀の栽培 	全児童生徒 (20名) 全
	2月14~25日 緑の募金運動	児童生徒 (20名)
	合 計	94名

推進のねらい

- (1) ボランティア活動を通して、児童生徒の自発性や社会性を育む。
- (2) ボランティア活動を通して、自然を守ろうとする心、地域社会へ貢献する心を育む。

今年度の効果

- (1) 朝のボランティア活動を小中縦割り班にして、異学年交流の中でボランティア活動を行うことが出来た。
- (2) 去年に引き続き、赤い羽根共同募金の重要性や使われ方を重視し、緑の募金活動では回収袋を作成し、各世帯に配布して実施することなど積極的な取組ができた。
- (3) ピーチクリーンでは、ゲーム性を用いて楽しくゴミ拾いを行うことができた。(海洋教育とタイアップ)
- (4) 4・5年生だけではあったが、車いす体験を行い、車いすを利用している方の苦勞や助け方を学ぶことが出来た。

2年間の実施による効果

- (1) ボランティア活動を苦しいものではなく、少しでも楽しく皆で考える事が出来つつある。
- (2) 2年間継続することで、赤い羽根共同募金は意識が継続され重要性や大切さに気付き、色々な考えを持ちながら取り組むことが出来た。

反省点・今後の課題

- (1) 昨年度と似た課題が挙がった。主体性をもった実践がなかった。ボランティア活動を子どもたちで振り返り、「どうやったら楽しくできるか」や「なぜボランティアをしないといけないのか」を考えさせられることが効果的だと考える。ただ、いろいろな活動を通して気づくことが多いので多面的なボランティア活動を取り入れていく必要がある。

(令和3年度)

学校名	ボランティア活動内容	参加人数
-----	------------	------

鳩間小中学校 (1年目) 3万円	通年 毎朝のボランティア清掃 4月 地域の清掃作業 (中森周辺・井戸・御獄・公民館周辺) 3回 5月 島内清掃 6月 校内美化作業(運動会に向けて) 慰霊の碑の周辺・ターミナル周辺清掃 7・9月 海岸清掃 地域の清掃作業(公民館周辺・御獄周辺) 2回 10月 赤い羽根共同募金 (募金箱作成・地域への働きかけ) 地域清掃(港周辺) 11月 校内美化作業(学習発表会に向けて) 12月 海岸清掃 2月 校内美化清掃(グラウンドゴルフ大会に向けて) 地域の清掃作業(中森周辺) 3月 海岸清掃、校内美化作業(卒業式に向けて)	全児童生徒 (9名)
	合 計	162名



活動推進のね

- (1) 自分た
- (2) 進んで
- (3) 自分た

今年度の効果

- (1) 児童・



- (2) 活動を通して、地域の人との交流の場となっている。
- (3) 主体的に清掃に参加する姿勢が見られる。

反省点・今後の課題

- (1) 活動には積極的に参加していたが、児童生徒が自ら企画して行う活動が少なかった。
- (2) 児童・生徒自身が、学校や地域の課題を見つけ、自分たちで何か取り組もうとする態度を育みたい。

②ボランティア活動校（単年度ごと）

当年度予算の範囲内で定額助成とし、2万円コースと4万円コースを設け活動助成金を交付し、学校単位で様々なボランティア活動を計画し、実践した。

実施日時 令和3年4月1日～令和4年3月31日

対象者 参加校9/13校 児童生徒

実施場所

1. 竹富小中学校[4万円]

竹富島民は毎朝、自宅前の掃き掃除を行っている。ボランティア活動を通して地域清掃の習慣化、低学年には清掃方法を学ぶ場になっている。また、地域からも大変喜ばれている。

地域の神行事に深く係る御嶽周り清掃することで、伝統行事への興味関心を高め、郷土愛を育むことができている。

ビーチクリーンを通して、表面的な解決だけでなく問題の根本は何か、それをどのように改善していくべきか考えるきっかけにつながった。世の中の社会問題を深く追求することができた。

2015年に国連で採択されたSDGsについて考えることができた。SDGsの「14.海の豊かさを守ろう」だけでなく、「12.つくる責任つかう責任」などについても考えることにつながり、世界が抱える問題について目を向ける機会となりました。

2. 黒島小中学校[4万円]

朝のボランティア活動を小中縦割り班にして、異学年交流のボランティア活動を行うことができた。

ビーチクリーンでは、ゲーム性を用いて楽しくゴミ拾いを行うことが出来ました。

3. 小浜小中学校[4万円]

助成金による備品の整備により、朝の定時活動の時間に回収した空きびんの整理・分類の効率が上がった。

児童生徒が自分の住む地域の環境保全とリサイクルについて考える機会となった。

異学年の縦割り班で活動を行うことで、異年齢交流による活動を行うことができ、教育活動としての効果も上がった。

学校の教育活動について、地域の方への理解につながっている。

4. 大原小学校[2万円]

地域の方々へ挨拶できるようになる児童が増えることで、地域の方と交流会を深めることができた。

赤い羽根共同募金活動を通して、思いやりの心や地域の福祉について考えることができた。

地域のお年寄りと交流会を通して、地域の事を詳しく知ることが出来た。



5. 大原中学校[4万円]

ボランティア活動を通して、「自分たちの学校は自分たちで守る」という意識を高めることができた。特に、あしながおばさんの会との交流では、昔の西表や開拓の方の話を直接聞くことができ、今まで以上に地域が近く感じた生徒が多かった。この交流を通して、地域の一員として自分たちが出来ることを考え、「これからは積極的にあいさつしたい」「地域に恩返しをしたい」などの声が出るなど、郷土愛を深める事が出来た。



6. 古見小学校[4万円]

赤い羽根共同募金は、「何のために行うのか」「集めたお金は何に使われているのか」などについて知る事が出来た。それにより、募金をする意味・意義を考えながら募金活動を行う事ができた。

ゴミ拾い活動を行うことによって、古見の浦がきれいになった。漂着ゴミ問題について児童の理解が深まった。

それぞれの活動の取組報告を作成することで、活動をふり返し、自分たちの活動を客観的に捉え、ボランティア活動の良さに気づけた。



7. 船浦中学校[2万円]

学年があがるにつれて老人福祉に関する意識の高まりが見られる。

身近な親戚や地域の方が入所していることを分かることで生きること何なのか真剣に考える生徒も増えている。

両親が老人福祉施設に働いている生徒もいる。キャリア教育として自己の生き方を深く考える機会となっている。

8. 白浜小学校[4万円]

全児童がボランティア活動を体験する機会をもつことで自主的な態度が育ち自己肯定感が高まった。

地域の方々との交流により、地域に根ざした教育を実践し、本校の学校教育活動への理解が深まった。



9. 鳩間小中学校[4万円]

活動には積極的に参加していたが、児童生徒が自ら企画して行う活動が少なかったが、児童・生徒自身が、学校や地域の課題を見つけ、自分たちで何か取り組もうとする態度を育みたい。

5. 視覚障がい者福祉事業

「私を感じるもの、見えるもの」

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：障がいの有無に関わらず地域住民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことができるようにする。講話、体験をとおして楽しく学び、障がい者への理解へつなげる。

事業実績：

平成 29 年度	実施回数	1 回	当事者	1 名	※石垣島にて歩行訓練、相談
平成 30 年度	実施回数	1 回	西表島西部地区		婦人会・ヘルスマイト・竹民協・当事者（家族） 含む参加者 22 名
令和元年度	実施回数	1 回	小浜島		婦人会・ヘルスマイト・当事者含む参加者 20 名
令和 2 年度	実施回数	1 回	石垣市離島ターミナル	会議室 1・2	大富ふれあいサロン 1 名、こみゆサロン 1 名、 まーまーず 2 名、民生委員児童委員 1 名、 小浜ヘルスマイト 1 名、竹富町役場 2 名、 竹富町社会福祉協議会 5 名

内 容：令和 3 年度

【鳩間島】車いす体験・アイマスク体験

日 時：令和 3 年 11 月 4 日（木）13：40～14：30

場 所：鳩間小中学校 外ピロティー周辺

参加者：全児童生徒 9 名、全教諭



【黒 島】車いす体験・ペタンク体験

日 時：令和 3 年 11 月 19 日（金）13：50～14：35

場 所：黒島小中学校 体育館

参加者：小学 4・5 年生 5 名、教員 2 名



【西 表】車いす体験・アイマスク体験・絵本読み聞かせ

日 時：令和 4 年 3 月 7 日（月）10：25～12：10

場 所：白浜小中学校 体育館

参加者：小学 3・4 年生 5 名、校長、担任



- ・これまで当事者への歩行訓練及び相談対応。しかし、年々ニーズが無くなり、当事者自身が講師となり西表島、小浜島でボランティア、婦人会、民生委員、ヘルスマイトを対象とした講話、アイマスク体験を行ってきました。少しずつ学校側から点字資材、車いす貸出相談が出てきたことをきっかけに、ボランティア推進指定校を中心とした車いす体験・アイマスク体験福祉教室を実施することになりました。

- ・社協職員同士の連携、また次回開催する練習にもなり職員間にとっても福祉教室の在り方について再確認することが出来ました。
- ・「相手のことを理解し、声掛けを工夫して楽しむ。自分に出来ること、自分達に出来ることに気づく。」とした充実した時間を過ごすことが出来ました。
- ・ペタンク体験では、子どもから高齢者みんなで楽しめるスポーツとして短い時間ではありましたが、楽しくレクリエーション体験出来ました。
- ・学年に合わせたプログラムを実施。これまでの実施を踏まえ、試行錯誤しながらニーズに合わせた対応と提案も同時にしていけるよう、職員の個々のレベルアップ兼ねてこれからも事業を展開していきたいと思えます。

[児童生徒の声]より

【鳩間小中学校】

- 今回は相手に安心させるというのが簡単と思っていましたが実際にやってみたらとてもむずかしかったです。また今度同じ機会があったらまたやりたいです。
- 車イスでは声かけをしてくれると安心することができた。そして、アイマスクをすると全く見えなくて不安だった。もしそういう人がいたら声かけを大事にしたい。
- 車イスが段差とか倒れそうで怖かったです。アイマスクをして歩くとかいだん転びそうでぶつかりそうでアイマスクも怖かったです。
- 相手の気持ちが分かったし、声かけがとても大切だと分かったのでよかったです。
- 車イスやアイマスクで声をかけてもらおうと安心して進める。
- 車イスとアイマスクの体験を通して、体や目の不自由な人の気持ちになって声かけなどができてよかった。
- 体の不自由な人や目の見えない人たちの気持ちを体験して思った事は、介護する人がやさしい声かけでいろいろ教えてくれることで安心できるということがわかりました。
- この体験をやってみて思ったのが、介護されている側から見て、優しい言葉使いや詳しく介護されていたら、とても安心し、うれしい一面もありました。介護する側は丁寧に説明した介護している人も大変でした。
- 怖かった。(目) アイマスク体験をしたときどこに何があるか分からなかった。(足) 車イス体験は段差の時どうやったら良いのか考えて行動できた。

【黒島小学校】

- 段差をのぼるのが難しかった。自分が車イスに乗っている時、声かけをしてもらったから安心して乗れた。
- する方：大変だった。/される方：下りがちょっとだけ怖い。
- 車イス体験で、車イスに乗っている人がとても大変なことが分かったので、車イスに乗って困っている人がいたら後ろから押してあげたりしてきたいです。
- 想像以上にむずかしかった。
- 思ったより車イスが楽しかった。段差の所は怖かった。

【白浜小学校】

- 目の不自由な人や車いすに乗っている人が一番不安なのか？今からどこに向かうのか？今からどうするのか？だと思いました。だからこれからは声をかけてその人を安心させてあげたいなと思いました。
- 車いすを使っていたら歩かなくていいから楽しそうと思っていたけど、乗ってみるとがたがたゆれて少し大変だった。押していると、重い人を乗せるとがたがたしているところを押したり上にあげるのはとても大変だった。アイマスクをつけている時に説明が少ないと怖かった。
- 車いすでは、退屈だったり段差があってビックリしました。アイマスクでは、少し怖かったけど、車いすと同じ相手が優しく声かけられて安心しました。伝え方によって違うと感じました。きつく言うと怖く思うと思いました。身体が不自由な人だけではなく、みんなに優しくしたいです。
- 私は最初、車いすはのりずらそうと思っていたけど今日体験をして、ずっと座っているのが大変であって、声掛けもしてもらわないと心配や不安なことがいっぱいありました。また、アイマスクをしていても声があるとどうしたらいいのかわからなくなったので、もし視覚障がい者の人に会ったら声掛けたいです。



6, 福祉育成援助活動事業 ボランティア育成推進 【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄付・会費等】



目的：町内ボランティアの人材育成、資質向上を行い、地域ネットワークの推進、地域福祉力の向上を図る。

内容：・ボランティア登録推進 ・ボランティア保険受付
・地域リーダー、ボランティアの育成
・県社協、石垣市で開催される研修会等への派遣

事業実績：

① ボランティア登録推進

【社協保険】すむづれの会 25名

竹富町社会福祉協議会 43名

サロン11団体 62名

【福祉サービス総合】意思疎通支援事業 16名

【活動保険】竹富町民生委員児童委員協議会 18名、日本野鳥の会西表支部 1名

西表島カヌー組合 45名、一般社団法人 皆家族会 11名

八重山環境ネットワーク 6名

船浦中学校教員・保護者 26名 ※第36回炭焼き体験学習

船浦中学校保護者 15名 ※西表島横断事前踏査

船浦中学校教職員・保護者 19名 ※西表島横断

【行事用保険】波照間塾 20名

② 福祉教室の開催

独居世帯や気になる家庭等を対象に子ども達が登下校中にためらうことなく積極的に「声かけ」が出来ることを目標に、その第一歩となるようフィールドワークを行った。

実施場所 西表東部地区（大原小学校）6回目 大原小学校4年生教室

実施日時 令和4年3月7日（月）10：25～12：10

参加人数 4年生 11名、あしながおばさんの会サロンボランティア3名、竹社協1名



- ・コロナ禍もあり、延期予定からの例年通りの開催が難しくなったため、事前に頂いていた子ども達からの質問に対してサロンで班分けして回答。その答えを事務局でまとめてボランティアを通して子ども達へ伝える形をとりながら、サロン活動・福祉ミニ講話を盛り込んだ授業の1コマを開催する運びとなりました。
- ・新型コロナウイルスの影響を受け、あしながおばさんの会の利用者とのふれあいインタビューは出来ませんでした。小学校からの質問の回答を利用者さんから聞くため、班分けしてサロン日に実施。お年寄りの言葉を直接聞いてもらえないのは残念でしたが、サロン活動に合わせて多くの興味深いお話が出て良かったと思います。
- ・ふれあいインタビューとしての直接サロン利用者との時間を過ごせませんでした。中学生になった時にまたふれあい交流会があることを伝えると子ども達も喜び、これまでの保育所での交流があったことを思いだしながら、ワクワクしている様子もあり、年齢に合わせた交流会の場があることは異年齢での交流会の大切や楽しみだと改めて感じました。
- ・ボランティア自身もはじめは声をかけられてやっていた事(義務感や責任感)があったが、今は自分達が楽しませていただいている。自然と無意識に楽しんでいるとして生き生きした様子もあり、子ども達への声掛け、関わりもとてもよい時間でした。
- ・子ども達からは、「ボランティアをしている人は支えるのは難しいと思っていたけど、楽しんでいたのが興味をもちました。」「ボランティアの方が工夫しているから、おばあちゃん達が楽しく過ごせているということがわかりました。」「ボランティアをしている人達がみんな知っている人たちだったのでビックリしました。」と、Q & A内容だけではなく、ボランティアを知っている人への関心もあり、これまでのふれあいインタビューとは違った学びの時間となり、色々な形での福祉教室を展開していくこともまた社協として必要な役割だと感じました。

[子ども達の声(自分が出来る事)]より

- 会ったらあいさつをする。笑顔で話かける。
- ぼくはおじいちゃん、おばあちゃんをみかけたらあいさつを進んでやりたいです。
- あいさつや、時間があったら少し話したりすること。
- おじいちゃんおばあちゃんに会ったら、あいさつをしたりして、持ち物をもってあげたいと思いました。
- 話もたくさんしながらあいさつをする。
- 一緒に遊ぶ。
- 階段を登ろうとしているおじいさんと、おばあさんが重い鞆を持っていたら助ける。
- 次からは一人でくらしている人とかいるから、朝とか会ったらあいさつしたいです。
- 自分から進んで話かけること。
- 通りかかったら挨拶をする。たまに近くに行ったときに話をする。
- 福祉の一つ出来る事をしたい。
- おじいちゃんやおばあちゃんに会う時は笑顔で話しかける。困っていたら助ける。
- 自分からあいさつをしたり、困っていたら助けたい。

③ 令和3年度ボランティア情報交換会

地域リーダーやボランティアの資質向上を行い、地域ネットワークの推進、地域福祉力の向上を図ることを目的に開催。

日 時：令和3年10月8日（金）11:00～15:00

場 所：石垣市離島ターミナル 会議室1・2

内 容：<プログラム1>

各サロンの活動紹介&ワークショップ「作ってみよう!!活動お知らせチラシ」

<プログラム2>

終活セミナー「元気なうちに取組、自分らしく生きる」

講 師：公益財団法人 沖縄県メモリアル整備協会 終活上級カウンセラー

東恩納 寛寿 氏

参加者：竹富町サロンボランティア（黒島・小浜・西表・波照間）20名、

竹役場福祉支援課3名、竹社協6名



プログラム1[参加者の声]より

- 楽しくワイワイ出来て面白かった。もう少し時間が欲しかったです。
- 時間が短かったので少し残念でした。様々な文具がしっかり準備されていたので作業はスムーズに出来たように思います。他の地区のチラシも大変参考になりました。
- パソコンだけではなく色々な物を使って作るチラシ楽しみながら作っていったら良いと思いました。ありがとうございました。楽しく可愛らしいチラシが作れたら届ける方ももらう方も楽しい気持ちになると思います。
- 初めて知ることが多く、ためになりました。是非実践して行きたいと思います。他のサロンの良い部分も吸収したいので、意見交換の場をこの先も定期的にもうけて下さい。
- 毎回普段会えない人たちとお会いできて近況報告など出来るので大変楽しんでおります。
- お知らせ作り等ためになったが、時間が足りない。得意不得意があるので私には出来なかった。いつも思う事ですが、時間が慌ただしい。
- 年間、毎月々きちんとなしていますが、それなりに素晴らしいですが、もう一工夫が欲しいと思い参加しました。今回参加して、若いボランティアさんも参加していてよいアイデアも浮かんでいてこれからの企画にとっても良いと思いました。初めて参加しましたが、大変良かったです。

- 予想以上さの活発。脳トレになりました。もっと元気で頑張りたいです。次回も参加したいです。また開催を希望します。
- 印象に残るようなチラシを作れるように勉強したいと思う。
- 時間をもっとあったいいなと思った。参加したメンバーと一緒に相談しながら描けたら良かった。もう少し時間が欲しかった。

プログラム2[参加者の声]より

- 気になっていた事が聞けたので大変良かったです。ありがとうございました。
- 体験談が多かったので考えが伝わりやすかったです。
- こういったセミナーは初めてでしたので大変良かったです。そろそろ終活を!!とかエンディングノートを!!とか考えてはいましたが、心配するよりもまず行動を!!とやってみようと思います。大変楽しく分かりやすいお話でした。
- 自分の最後までやって亡くなったおばあさんを目標に生き方の道標が出来ましたと思います。頑張って生きて行けると思います。
- 終活をする(考える)ことで今を生きる事をもっとしっかり考えないといけないと思いました。今を上手く生きたいと思いました。
- 後悔しないための生き方について知ることができた。自分で避けていた部分もあります。向き合おうと思いました。ありがとうございました。
- 大変参考になりました。元気なうちにこれから真面目に考えます。
- 私の両親はピンピンコロリ。まさにその通りに亡くなりました。ショックはありませんでしたが、皆さんにあやかりたいという言葉を言われて、この歳になって考えるようになりました。健康に気をつける、子どもに迷惑かけないようにしています。
- 人生を(生き上手は死に上手)できる様に終活したいと思いました。
- 来年80歳になるので、終活は文章にしていらないが色々と考えています。去年、育児拒否された子ヤギをもらって育てています。このヤギが死ぬまでは元気でいなければ。
- 色々考えさせられる時間でした。両親にも話したいと思いました。
- 葬儀についても詳しく知ることが出来ました。私も父を3年前に亡くしているので、共感を持ちながら話を聴けた。帰ったらお線香をあげて手を合わせたいと思った。
- 自分の為の終活をしっかり考えていきます。セミナーを聞いてよかったです。
- 具体的に少しずつ整理して書き出していきたいと思います。
- ありがとうございました。私も25の後悔をしないよう生きたいと思います。
- 主人にもぜひぜひ聞いてもらいたい。私自身もはっきりさせたい。大変感激しました。
- 終活をする意味、始め方、色々納得できる話で勉強になりました。自分の為の人生なのですが家族がいる以上、人生を終える時、家族に余計な心配、悩み、手数をかけないようこれからの日々の過ごし方を今一度見直ししてみようと強く思います。ありがとうございました。
- 胸が熱くなるお話をおもしろおかしく話していただいてありがとうございます。生き方を深く考えさせられました。
- とても良かったです。今まで聞いた講話の中で一番です!!ありがとうございました。

日 時：令和3年11月11日（木）11:00～15:00

場 所：竹富島 まちなみ館

内 容：<プログラム1>

終活セミナー

「終活から人とつながる。縁をつむぐ集活へと意識、活動を!!」

講 師：公益財団法人 沖縄県メモリアル整備協会 終活上級カウンセラー

齋藤 学 氏

参加者：サロンボランティア・婦人会・老人会・地域住民 21名、竹社協3名



[参加者の声]より

- 日々の生活、目の前のことでいっぱいな毎日ですが、いつ来るかもしれない“死”後悔のない様に生きていきたい。一番は自分自身と向き合う、自分を理解すること大切だと感じました。死ぬその時まで夢のある人生を送りたい。人生振り返って「さようなら～」とおだやかにいきたいな。
- 人間としての哲学を学んだ。時間がもっと欲しかった。
- エンディングノートを書いてみたいと思います。
- 「終活」という言葉を知ってはいたけど、考えたことがなかったので、自分事として行くきっかけとなった。島内での開催が嬉しいです。
- 今生きている時間を大切に生きていきたい。感謝の気持ちを持っていく。
- 前向きな終活進めていきたいと思います。今日はありがとうございました。
- 興味があり参加しました。参考になりました。
- 終活セミナーということで来ました。勉強になりました。
- 死を考えることが年々増えているので、今回これからの人生をもう一度考えたいと思えた。分かりやすい内容で良かったです。
- これからの人生を楽しく生きて行こうと毎日思う事になっています。何事も前を向いて家族と話し合いながら終活が出来るように夫婦で時間をかけて楽しく話せるようにして生きていきたいです。ありがとうございました。
- はじめての終活講話でした。難しく考えず、ノートを書いていけたら良いなと思いました。今、自分の生活を楽しみたいと思う。
- 終活は終わりに向かう中で自分が自分らしく何が出来るか。そして、今を良くするために日々暮らしていけたらと意識していきたいです。
- 人生が楽しかったと言えるように生きたい。終活は年齢に関係ないのだ。
- 自分が日々感じ行動している終活はこれでいいのだと再確認出来ました。両親の終活が素晴らしいので、自分たちも見習いたいと日々思っています。

日 時：令和4年3月4日（金）11:00～14:30

場 所：石垣市離島ターミナル 会議室1・2

内 容：<プログラム1>

・ボランティア研修会・情報交換会の振り返り

・蜂蜜を使ったおやつ紹介

講師：竹富町役場 健康づくり課 栄養士 大瀨 由佳 氏

・蜜蝋エコラップの作り方

講師：よへな養蜂 饒平名 蘭 氏

<プログラム2>

・認知症の方とサロンを楽しむために

講師：訪問介護ステーションさみん 廣木 ゆかり 氏

参加者：竹富町ボランティア15名、竹役場福祉支援課3名、竹社協6名



[参加者の声]より

- 話し合いの機会があれば各島々の色々な話が聞けて参考になります。一人で考えるより幅が出来て良かったです。楽しく遊び学べるサロンを作りたいのでこれからも情報交換が出来れば良いですね。
- 時期的に忙しい最中でしたが、時間をつくり参加して良かったです。各サロンの人の直接活動やPRをやってもらえたらと思います。2回の参加ですが時間なくせわしく思います。全体的に和気あいあいの交流が出来良かったです。
- サロンが大事だと再認識出来ました。ありがとうございます。
- とてもわかりやすく勉強になりました。ワークショップの時間をもっとゆっくりとって欲しかったです。
- グループワークでの話し合い、大変参考になりました。毎回何があるのか、楽しみに参加させて頂いております。今回、大変良かったです。異性が入ると、また物の見方に発見があり、大変参考になりました。ありがとうございました。
- 病気という面を見るのではなく、人を見る。本当に大切ですね。そう考える事で自分も楽な気持ちで仕事出来るようになりました。
- とても良かったです。時間が無く残念です。短時間でメニューが多い気がしましたが、実技ともに良かったです。又次回も宜しくお願いします。
- これからの自分を考えるいい機会になりました。ありがとうございました。

④ ボランティア講演（動画配信：期間限定 YouTube 動画）令和3年5月13日～6月30日
沖縄県における福祉教育推進へ向けた取り組み・コロナを題材とした福祉教育プログラムについて

（1）地域共生社会の実現を目指した福祉教育・ボランティア学習の拡がり<理論編>

**（2）地域共生社会の実現を目指した福祉教育・ボランティア学習福祉教育の拡がり
<実践編>**

（3）コロナ禍における共同実践した福祉教育プログラムの展開

- ・予定では、ボランティア推進校（黒島小中・鳩間小中）と次年度予定ボランティア推進校（西表小中）の担当職員と事務局にて那覇研修としていました。しかし、コロナ禍でも関係者がつながる福祉教育プログラムについてオンラインでの受講可能となった為、今年度からボランティア活動校助成金もあり、推進指定校以外の学校も参加しやすくなったことから、5月24日文書受付後、6月9日に竹富町立小中学校（校長宛）へ情報提供としてメールにてお知らせを行いました。
- ・一人ひとりの幸せは多様化している中で、ボランティアとは共に歩いていくという手話もあるように様々な生きづらさをかかえている人を独りぼっちにしない。
社協では、普段の暮らしの幸せを豊かにしていくことを福祉教育として実践してきましたが、大切なことは、地域によった特性を活かした実践をどのように展開していくか、人の幸せを考えて行動するのが福祉だと学べるよう心がけることや、伝いたい目的と体験を意識することでみんな違ってみんないいということ。また、自立と依存は裏表の1枚であり、じりつとはいかに信頼でき依存（頼りに出来る人）が身の回りにいると実感できた時、人

は自立していける。ワークショップでは、問いかけられたらまずは問を返し、そして相手の答えを聞き、答えを返すことが大切だと改めて確認できたので、実践していきたいと思っています。

⑤ いきがい・助け合いサミット in 神奈川（動画配信）令和3年9月1日

共生社会をつくる地域包括ケア ～生活を支え合う仕組みと実践～

（1）全体シンポジウム

「幸せな人生と社会に不可欠ないきがいと助け合い」

- ・人間は存在欲求が一番大切であり、個人の助け合いを必要性としています。
生きがいとは、「お互いの存在を大切にしながら、自分らしく地域で暮らす。」ことであり、住民が主体的に共感できる社会に働きかけていくのか。住民一人ひとりが動くためにはどうしたらいいのが課題です。
- ・人は自ら動いて誰かと会って気づき共感する。人間は同じ時間、同じ場所にいることでアイデアが生まれ、動いていく欲求をくみ取れる仕組みをつくりあげ、みんなが楽しみながら参加出来るしくみづくりが必要とし、人間と人間の結びつきが大事であること。
- ・地域を愛して、愛している人たちを中心に居場所づくりをつくっていく。しかけていく。サービスだけではなく、人間性も見ていきたいと思えます。
- ・下から上に課題や要望を上げていく事が大切であるため、今やれていることを広げていくことや地域で何の困りごとがあるのか、共有していくことに努めたいと思いました。
- ・相談員、コーディネーターは地域の困りごとを受付し、断らずに場や事業を通して一緒に作業していくこと。そして、案件をメンバー間で議論し、専門機関へうつすこと、必要な居場所へうつしていくことが大切だと学びました。

（2）[分科会 9]

有償（謝礼付）ボランティア活動をどう広げるか

- ・住民の意識改革が必要であり、人によっても年齢によっても生きがいは違う中でどう取り組んでいくのか課題です。時には、就労的活動支援にもなります。
- ・地域の活動者、キーになる人へ声かけて参加してもらうことや、いつかは我が身だよという、気軽に利用できる場づくりが必要と考える。
- ・「できる人が出来る時に出来ることを。」色々な工夫をしていくことで広がっていくと思えます。事業運営の継続性という観点だけではなく、手助けを受ける側の気持ち（頼みやすさ・気を使わせない）から考えることも大切であり、無理のない範囲で充実し継続していくこと、各地区に居場所があることでニーズがみえてくると思えます。

（3）[分科会 14]

個人の住宅を地域に開くには、どうすればよいか

- ・地域社会と家というのは、環境・生活習慣を整える、五感で体感するものであり、居・食・住が大切だと言われているが、食育は広まっているが住育はまだまだである。
- ・暮らすその家族の未来をみすえた住育（夢マップ）が必要とし、子どもと一緒に考えていく住まいとまちづくりを考えていくことの気づきとなりました。

(4) [分科会 33]

人口が少ない自治体における助け合いによる生活支援に関する課題と対策は何か

- ・自治体において、限られた人材や資源をどう有効にしていけるのか、安心安全健康に暮らせる町、自己実現が出来る町、未来を画ける町、できること、やりたいことを掘り起こして、より多くの人たちが自分の「好き」なことで活躍できる場、仕組みを作ること、そしてチャレンジする人をしっかりバックアップすることが重要。
- ・SC（生活支援コーディネーター）を孤立させない。会議・研修会への出席、参加を分担し、個々の相性やネットワークを生かして地域・人と関わりながらデメリットを少なくしていくこと。事業はあくまでツールであり、住民自身が動きやすい、動ける環境づくりが大切である。やる気のある人とつながっていく事で、少しずつ地域の意識が変わってくる。
- ・自分達の地域に合わせた取り組みを行うためにも、地域の方とケースで係るとチームとして動ける強みや、失敗を恐れず色々なことをしかけていくこと。皆でもちよって、皆で考えて、皆でおもしろく動くことで、住民と同じ目線だからこそ柔軟に考えることで必要なものが見えてくる。
- ・地域で必要なものが地域で問題定義し解決していく力や、人・モノ・金・情報としての総合支援事業は生活支援事業だけにとどまらなく、集まることで支援につながり、介護予防につながると学びました。

7. 福祉育成援助活動事業 結のまちづくり推進

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：地域内で発生している福祉課題を住民全体の問題としてとらえ、住民相互の助け合い・ふれあい活動を基本に解決できるよう、地域支え合い体制の基盤づくりを推進する。

内容：実施場所 竹富島・小浜島・黒島・西表島・結のまちづくり助成金地区 他

実施日 令和3年4月～令和4年3月

- ・事業説明、及び相談対応
- ・結のまちづくり活動助成団体への支援

事業実績：コロナ禍での交付式・事業説明会・座談会が団体・地域によっては中止。
実施団体及び、次年度申請団体へは電話、窓口相談等での予約受付対応。

(相談対応した団体)

- ・小浜婦人会[訪問・電話対応]
- ・織・藍好会[訪問・電話対応]
- ・細崎青年会[訪問・電話・窓口対応]
- ・小浜島ふあま会[訪問・電話対応]
- ・五感を育む会[電話・窓口対応]
- ・大原婦人会[訪問・電話対応]
- ・古見美原子ども会育成会[訪問・電話・窓口対応]
- ・上原老人クラブ[訪問・電話・窓口対応]
- ・祖納老人クラブ[訪問・電話対応]
- ・西表西部にこにこ応援隊[電話・窓口対応]
- ・鳩間公民館[訪問・電話対応]
- ・鳩間子ども会育成会[訪問・電話対応]
- ・波照間地区食改善推進協議会[電話対応]
- ・竹富老人クラブ松竹会[訪問・電話対応]
- ・竹富地区食改善推進協議会[訪問・電話・窓口対応]
- ・豊原子ども会育成会[訪問・電話対応]



8. 結のまちづくり活動助成事業 【財源：赤い羽根共同募金】



目的：共同募金の一部を財源として「住み慣れた島で安心して暮らせるまちづくり」の推進に取り組む団体・グループ等に対し公募によって申請を受付け、助成する。

内容：実施場所 竹富全域

実施日 令和3年4月～令和4年3月

- 対象事業
- (1) 地域福祉活動の推進・福祉啓発の推進
 - (2) 健康・生きがいづくりの推進
 - (3) ボランティア活動の活性化
 - (4) 児童の健全育成の推進
 - (5) 当該申請年度中に団体を設立するための準備経費
 - (6) その他、地域福祉の推進に効果が期待できる活動

事業実績

1. 小浜婦人会 (助成金 35,000 円)

内容：手作りゴキブリ団子を配布し住みよい小浜島にしよう。

害虫を退治し、環境を良くする。会員以外の住民に声掛け一緒にホウ酸団子を作り、配る(新会員介入につなげる)。毎年作って会員のみを使用している団子を全世帯、お宮、公共施設、空き家に配りながら一人ぐらしの世帯の見守りを兼ねる。



効果：今回、ホウ酸団子を多く作った事で毎年配っている駐在所小中学校、保育所、診療所だけではなく地域のお宮やお年寄りの方にも配る事が出来ました。頂いた方は、「この時期は沢山のゴキブリが出るから良かったなどこのホウ酸団子はすごく効き目があるから助かるのよ～」と、お声が聞けて婦人会としても嬉しく思います。地域の方の喜ぶ顔が見られて事が良かったです。

2. 織・藍好会（助成金 88,000 円）

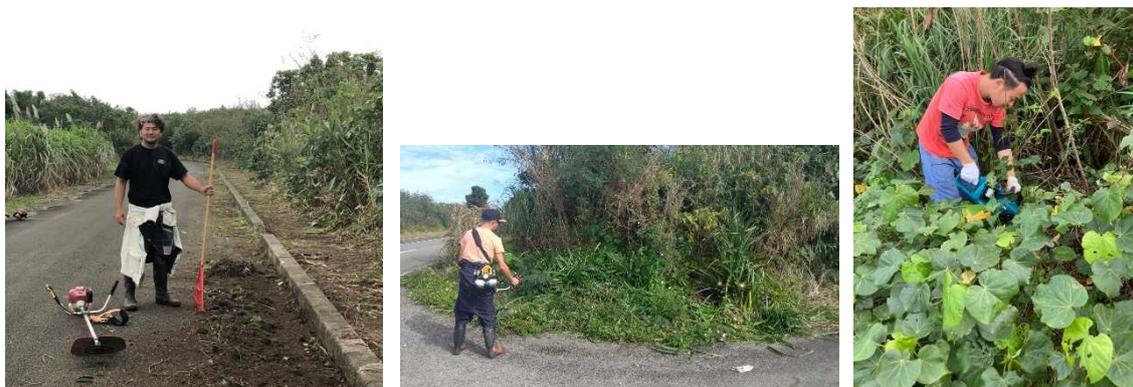
内容：伝統工芸品継承、製作活動とする基本の藍建を学ぶ。小浜島で学び今現在、藍織を職としている講師を招いて藍のたて方を学ぶ事が出来る。これまでの失敗、疑問など目・手など実際に学ぶ



効果：藍染めで大切なたて方を学ことができ良かった。島の伝統文化である織物・藍染めの基本をグループ以外の方も興味のある方多数参加出来て、係る人が増えたことも良かった。結果は課題をたくさんかかえてしまったが、一步前進することが出来、次回への意欲がわいている。今回は糸を染めることが出来た。藍色の出し方、環境の違いでも変化する。染め重ねる楽しみを味わうことが出来た。

3. 細崎青年会（助成金 63,000 円）

内容：細崎・東細崎内の雑草や危険な草木を刈り取り、安全できれいな集落を保つ。住民の環境保全意識向上と景観維持の為の労力軽減。年間を通じた景観維持による細崎地区の魅力向上。



効果：今までほとんど手入れをしてこなかった地域の清掃を行ったことで景観の向上と見通しになったことにより、交通の安全面での効果も上がったと思います。また、住民全体で取り組むことにより、住民同士の協力関係も向上したと思います。

4. 大原婦人会（助成金 50,000 円）

内容：季節に応じた花を種から育てて県道や郵便局、診療所等に植える。西表島での玄関口として、島を訪れる方々にキレイな花でもてなす。街並みがキレイな事によって、住民もそれを維持しようと意識が変わり、結果として良い町づくりにつながる。キレイな花が並ぶ事で心が和む。



効果：きれいな沿道に花が並ぶことで心が和んだ。コロナ禍で中々集まれなかったけど、とても楽しく取り組むことが出来た。

5. 古見美原子ども会育成会（助成金 56,000 円）

内容：「海岸のゴミと宝物を一緒に見つけよう大作戦」子ども会で年間2回、ボランティア活動によるビーチクリーンを行う。鳩間島の油化プラント見学。海流に乗ってきた種にも目を向けて、海のつながりを学ぶ漂着種子勉強会。漂着ゴミ回収を長年やっておられる西表島バナナハウスの森本氏を講師に山にも出かける。新しい視点を持つ事の大



効果：「大人が作ってしまった今の社会経済活動の末端の中で生まれる使い捨てプラスチックゴミ」これを子ども達に背負わせることで大切な気づきもあるがとはいえ、大人の責任。これに新たな視野を加えることで楽しくも出来るのでは!?という発想での今回、コーチングも一緒に行いました。流れ着くのはゴミだけではなく、漂着種子や貝、生物の骨や流木、地球の美しさに想いをはせることが出来る宝物でいっぱい。当日はビーチコーチングに詳しい方をお招きして、一緒に歩きながら沢山の宝物を拾いました。子ども達は新しいものを見つける度にたくさんの質問をし、大切そうに各自持ち帰りました。子ども達にとっても視野の広がる楽しい時間になりました。同時にビーチクリーンも行いました。

6. 祖納老人クラブ（助成金 100,000 円）

内容：地域の公民館、診療所、郵便局、老人クラブのいこいの広場などへプランターを使って花いっぱい運動。年間3～4回を通して花作りを実施。ゲートボールや百歳体操など中々参加出来ない会員もぜひ参加して和やかな雰囲気の中での花作り活動で健康、生きがいつくりのアップ。また高齢者宅へ花の苗の配布。（ふれあいの輪）



効果：この一年間、和やかな雰囲気の中で土作り、苗作り、草刈り作業など実施することが出来ました。冬場の花の苗は主に購入したが、花の少ない夏はコリウス、松葉牡丹、アメリカンブルーの苗を押し木で作りました。今後も会員相互の健康づくり、生きがいつくりの推進と共に花いっぱいの地域づくり活動を続けていきたいと思ひます。

7. 西表西部にこにこ応援隊（助成金 100,000 円）

内容：【学びの場】4地区の世話係（食改メンバー）が中心となり、次期開催予定地区のお年寄りに講師をお願いして地区公民館においてニコニコ応援メンバー＆地域婦人及び希望者に向けて調理講習会を行ってまいります。【ふれあいの場】西部地区ゲートボール大会において、講習会で学んだ島料理を参加者に食してもらいながら島の昔話などなどお聞きする。



効果：身近な地元食材を使って懐かしくもあり新鮮でもある一品にしてお年寄りの皆さんとゲートボール大会での試食を中心に活動しました。コロナ禍の中で活動予定数が大きく減ったため3/23の最終活動では80歳以上の方へ「春よ来い」と思いを乗せて2段弁当をお配りし大変喜ばれた。応援隊員も新しいレシピを学ぶことが出来ました。

8. 鳩間公民館（助成金 80,000 円）

内容：お年寄りなど屋敷回りの雑草に困っている方に聞き取りを行い、定期的にチームを組んで作業する。船あげ場前の広場などの草刈り。一周道路等の清掃（町役場補助金以外の清掃）。船あげ場前広場に一部除草シートを張る。



効果：定期的にビバーで刈り込んでも追いつかない。今回、島の方々にも了解を得て、ランタナ除去を中心に作業を行う事にした。除草剤をまいた翌日に思いがけない大雨と色々苦労はあったが、この活動を通して参加者が普段気にしない箇所の雑草などの除去に強く抱くようになった。今回の事業で購入した草刈り機は誰でも使えるように保管してあるので、気が付いた箇所の除草作業に多いに役立つ。綺麗な鳩間島を目指して今後とも活動は続けていく。

9. 小浜島ふあまあ会（助成金 15,000 円）

内容：子ども及び、両親の交流。情報交換の場とし生活の質を高める為。子ども同士、親同士の交流を図り、情報交換や悩み事の相談の場となり、力を抜きストレスの軽減につながる。コロナ禍で満足に活動出来ない中でも出来る限りの機会を作り、コミュニケーションを取り、引きこもり予防等につなげる。



効果：島に住む親子同士の交流を図り、情報交換また悩み相談の場とし日常のストレス軽減とともに島での孤立育児の防止につなげる事が出来ました。

10. 鳩間子ども会育成会（助成金 88,000 円）

内容：島に伝わる標語や教訓・黄金言葉を中心にカルタ読み上げ用の文言作り。言葉に合ったイラストなどの作成。カルタ台紙に張付作業。オリジナルカルタで交流会。



効果：地域のお年寄りを始め、石垣在郷友会、沖縄在郷友会の方々の協力に感謝。方言を楽しく覚えながら残していこうという趣旨に賛同される方が多く、また、子どもたちとお年寄りの交流もできた。当初予定していた講師アドバイザーを招いての企画が、コロナの影響でお招きすることが出来ずに残念だった。カルタが出来たら欲しいという要望が多く、予定していた旅費の予算から謝礼という形で送る準備をしている。公民館にはポスター版にして貼りだして、地域の方々にも見てもらえるようにしている。子ども達は気になる言葉の発音とかを教えてもらっている。コロナの状況を見ながら、地域でカルタ大会を開催する準備も整っている。

11. 五感を育む会（助成金 23,000 円）

内容：有用植物について学び、島の伝統生活文化を継承・保存し、現代への活用に応用させる。大里商店研修、その後振り返りと会員へのシェアを行う。自然についての学びが島を大切にする心を育む。



効果：今年度も大売店研修を計4回実施し、その後でふりかえりを行い会員をはじめ、地域住民にも声かけし、楽しく学ぶ事ができた。昨年からの経験があるので今回はスムーズに進み、原料調達もできるようになり、さらに、継続して取り組んでいきたい。振

り返り講習会の1回は大ぶつぶつ市の時に行い、たくさんの来場者に見てもらった事が出来た。

12. 上原老人クラブ（助成金 50,000 円）

内容：上原老人クラブは、月に1回子ども会と混成でグランドゴルフを行っている。「まちや公共の場に花が咲く」。花の成長過程を老・年少児童（時には親も）協働で行う。

「自分たちの花だ!!」という共同作業の結果を老・年少児童が共に喜べる「場」「時間」を醸成する。



効果：

①「花いっぱい運動」の充実

県道中野線の美化活動は、前年度より活動対象を拡大し、舗道反対側の私有地のギンネムや雑草を除去し、「むらさきオモト」や低木の観葉木を植える事により、急カーブの所も見通しも確保出来、事故の危険性も少なくなった。今後も定期的な手入れを行い、さらに気持ちの良い通りとしたい。

②「わいわいホール花壇の手入れ」は、「結いのまちづくり事業」を受けて整備を続けているが、土壌も良くなってきており、花木にも勢いが出てきた。花壇については、町の土地活用との関係で、「3分の1ぐらい」が他に活用された。これも又、町民・公共の福祉の為として、残った部分を「花いっぱいにする意気込み」です。

③併せて、「プランター活用」の花作りも、側面に張り付けた「上原老人クラブ・助成＝町社協・共同募金会」のステッカーは人目を引き、老人クラブ活動と共同募金資金についてこのような活用方法もあるのかと他の地域住民から聞こえている。

④「花いっぱい運動」の為の「プランターの長期使用」目的の保管、或いは「プランター用の土壌・腐葉土」の再生・再醸成等の為の保管場所は、本事業の資金と産業振興課から了解を得て設置する事が出来た。

⑤老・年少児童の共同作業については、ゲートボールコート、グラウンドゴルフコースの草刈りを継続的に行っている。これはコロナが収まり、何時でも共にチームを組み競技が行える状態が来たその時こそ「さあ一緒に…と、心が通う・即ち、「老・年少児童の世代間の交流が濃密な地域（コミュニティー）づくり」の重要な要因・要素の一つになると考えます。

9、共同募金運動の推進

【財源：県協募事務費（共募会計）・歳末助け合い募金】



目的：竹富町共同募金運営委員会で決まった事業計画に沿って、住民参加のもと募金運動に取り組む。

内容：実施場所 竹富町全域・石垣市

実施日時 令和3年10月1日～12月31日

実施方法 戸別募金・法人募金・学校募金・職域募金・個人募金・その他

事業実績：

① 沖縄県共同募金委員会受賞報告及び、伝達式

1) 一般篤志寄付者（金額に関わらず10年以上寄付を継続）…法人団体

(有)大、(有)ホンダ四輪大川モーター、(有)肥後工務店、(有)洲鎌組、(有)日栄電設興業
共立生コン工業（株）、（株）与那原建設、（株）三矢コンサルタント、(有)横目測量設計
（株）水圏科学コンサルタント



2) 奉仕功労者・団体（10年間に亘って奉仕活動）…2団体

(団体)竹富町立古見小学校児童会、竹富町立上原小学校児童会



② 共同募金出発式及びボランティア推進校交付式

日 時：令和3年10月1日（金）

場 所：竹富町立鳩間小中学校児童生徒会

参加者：児童生徒・先生・地域民生委員児童委員、公民館長・区長



③ 募金箱の制作 全12校

[竹富小中学校、小浜小中学校、黒島小中学校、大原小学校、大原中学校、古見小学校、船浦中学校、上原小学校、西表小中学校、白浜小学校、鳩間小中学校、波照間小中学校]



④ 募金箱設置

[令和元年度 57ヶ所設置]

[令和2年度 60ヶ所設置]

[令和3年度 石垣市 23ヶ所
竹富町 53ヶ所設置]



Z

⑤ 街頭募金活動 [小浜島ふあまあ会、五感を育む会、黒島小中学校、大原中学校]



⑥ 共同募金審査委員会の開催（年2回）、共同募金運営委員会の開催（年2回）



⑦ 啓発活動 [事業実施等に合わせて、事業についての周知活動]

⑧ 募金贈呈式の開催

12月8日 大原小学校 15,808円



12月20日 竹富町商工会建設業部会 500,000円



1月14日 西表小中学校 16,533円



1月18日 大原中学校 133,490円



1月21日 波照間小中学校 23,876円



1月27日 鳩間小中学校 41,572円



1月31日 古見小学校 15,221円



2月1日 小浜小中学校 22,323円



2月4日 竹富小中学校 76,091円



- ・今年度もまた皆さんが募金して頂けるよう、手作りの募金箱については児童会生徒会を中心に製作。子ども達自身で募金箱の設置のお願いを行い、回収、集まった募金の集計まで行いました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら募金活動に臨んだ結果、たくさんの思いやりを頂くことが出来ました。
- ・募金箱作成し募金活動、贈呈式につながるという意識の強化が感じられる。その背景には先生方、子ども達の募金に対する想いが年々強くなってきていること、募金活動だけではなく、ボランティア活動も同時に引き継がれていることを感じています。また今年度は新教育長と一緒に沖縄県共同募金委員会受賞報告及び、伝達式にあたり学校回りも一緒に行うことが出来ました。
- ・竹富町商工会建設部会からは今年度も500,000円の町の社会福祉向上を願った募金を頂き、建設部会参加者と共に情報交換会を行い親睦が深められました。

⑪ 募金額

【赤い羽根共同募金】

年度	目標額	実績	達成率
平成 30 年度	2,062,000 円	2,836,409 円	137.6%
令和元年度	2,060,000 円	2,895,571 円	140.6%
令和 2 年度	2,053,000 円	2,875,368 円	140.1%
令和 3 年度	2,046,000 円	3,144,353 円	153.7%

(内訳)

戸別募金：424,255 円

職域募金： 177,600 円

学童募金：409,996 円

法人募金：2,023,000 円

個人募金： 31,104 円

その他： 77,366 円

【歳末助け合い運動】

年度	目標額	実績	達成率
平成 30 年度	900,000 円	1,492,136 円	165.8%
令和元年度	1,000,000 円	1,274,419 円	127.4%
令和 2 年度	1,000,000 円	1,606,115 円	160.6%
令和 3 年度	1,200,000 円	1,769,868 円	147.5%

(内訳)

戸別募金： 457,368 円

職域募金：149,500 円

法人募金：1,150,000 円

個人募金： 13,000 円

- ・例年より動きづらいコロナ禍 2 年目でしたが、区長会議をはじめ、各事業に合わせて共同募金の周知活動、新聞掲載等を行うことや石垣市社会福祉協議会との距離感を保ちながらこれまで以上に地域住民へのお礼、協力願いを丁寧に行いました。
- ・事務局内での募金活動の準備、協力体制を強化。法人含めて地域住民のご理解、ご協力もあり、目標額を達成できました。
- ・ボランティア指定校だけではなく、学童募金の贈呈式を行う学校の増加、また指定校外でも街頭募金をするなどの自主的取り組みもありました。
- ・ボランティア活動校としてのはじめての取組も活発に行われ、福祉教育だけではなく募金活動についても強化しはじめたと感じています。

10、歳末たすけあい配分事業 義援金配分 【財源：歳末助け合い運動募金】



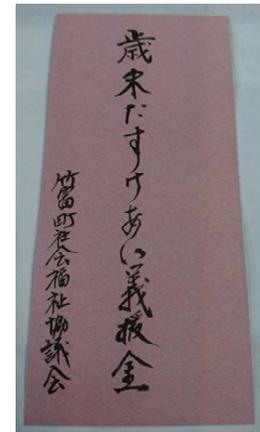
目的：新年を迎える時期に、生活困窮世帯（非課税世帯）で支援を必要とする人達が地域で安心して正月を迎えられるように、歳末助け合い募金の一部を配分する。

内容：実施場所 竹富町全地区
実施日時 令和3年12月下旬
実施方法 区長・民生委員児童委員による配分対象者調査後、実施要領に基づき配分額、配分対象者を決定する。

事業実績：

【令和元年度】 一人当たり 10,000円 計50名
【令和2年度】 一人当たり 10,000円 計71名
【令和3年度】 一人当たり 10,000円 計47名

●竹富地区	4名	●小浜地区	9名
●細崎地区	1名	●黒島地区	1名
●大原地区	5名	●豊原地区	4名
●大富地区	2名	●古見地区	3名
●美原地区	1名	●祖納地区	2名
●干立地区	1名	●白浜地区	3名
●波照間地区	9名	●新城	1名
●鳩間地区	1名		



- ・今年度より区長から見守りと状況把握も兼ねて民生委員児童委員より配布。
- ・コロナ禍もあり、貸付利用者について今年度は前年度とかわり、八重山地区労働金庫から対象者38名へお米（西表島産黒子米、もち米）配布。
- ・義援金配分額が他市町村より多かったこと（他市町村は5千円程度、もしくは物品）、ふれあいイベント助成申請団体が増加してきたこともあり、平成30年度からは10,000円。
- ・要項（県）の実施方針によると、義援金配分の縮小及び地域づくり事業等への配分拡大が明記されているため、年末年始に地域で開催される行事等へ重点的に行っている。

1 1、歳末たすけあい配分事業 ふれあいイベント助成 【財源：歳末助け合い運動募金】



目的：竹富町の高齢者、障がい者、子どもなど、誰もが地域社会の一員として安心して新年を迎えることができるよう、住民の主体的な参加により地域で実施される福祉活動を支援・推進することを目的とする。

内容：実施方法 実施要領に基づき配分額、配分団体を決定する。

事業実績：（各団体及び申請額）

① 竹富ぶなる会	30,000 円	クリスマス会・フリーマーケット
② 竹富町食生活改善推進協議会	30,000 円	クリスマスケーキをプレゼント
③ 小浜老人クラブ明朗会	30,000 円	お楽しみ交流会
④ 細崎公民館	30,000 円	グラウンドゴルフ大会
⑤ 黒島子ども会育成会	30,000 円	クリスマス会
⑥ 大原子ども会育成会	30,000 円	もちつき大会
⑦ 豊原子ども会育成会	30,000 円	クリスマス会
⑧ あしながおぼさんの会	30,000 円	大原中学校と交流会
⑨ 古見・美原子ども会育成会	16,535 円	クリスマス会
⑩ 美原公民館	30,000 円	年末大清掃
⑪ こみゆサロン	30,000 円	出張サロン
⑫ 上原公民館	11,913 円	凧作り教室・凧あげ大会
⑬ 上原ドリームスポーツ少年団	30,000 円	新年会
⑭ 住吉婦人会	30,000 円	住吉婦人会から SDG s
⑮ 浦内子ども会	20,000 円	地域の方々へクリスマスプレゼント
⑯ 千立公民館	30,000 円	独居・高齢者宅樹木伐採・剪定
⑰ 千立子ども会育成会	30,000 円	クリスマス会
⑱ 白浜公民館	30,000 円	新年会&成人式
⑲ 波照間青年会	30,000 円	島内のイルミネーション飾付

合計 528,448 円



12, 生活困窮者等への支援 【財源：会費、寄付金、歳末たすけあい】



法外援護事業

目的：生活保護法、その他社会福祉関係法による適用の対象とならない一般生活困窮者に対し、予算の範囲内で金品等の支給措置を講じ、緊急かつ一時的に支援を行う。

対象者：①竹富町に住んでいる者 ②被援護世帯であり、突発的に支援が必要な者
③その他、会長が認める被援護者

援護内容：突発的緊急時に伴う医療関係機関受診に係る船賃（実費負担）
突発的緊急時に伴う食材等の現物給付 支給限度額は 5,000 円とする

事業実績：平成 30 年度 3 件 男性 2 人（現金 5,000 円、3 日分の食料）（2 食分）
女性 1 人（現金 5,000 円、4 食分）
令和元年度 0 件
令和 2 年度 0 件
令和 3 年度 2 件 男性 2 人（現金 1,290 円船賃）（3 日分の食料）

[在庫状況]

- ・アレルゲンフリーカレーライス 19 個
- ・アレルゲンフリーハヤシライス 19 個
- ・玉子丼 19 個 ・鶏そぼろ玉子とじ丼 18 個
- ・きのこ丼 19 個 ・豆腐丼 19 個
- ・豚丼 18 個 ・すきやき丼 17 個
- ・缶詰パン ディニッシュプレーン味 22 缶
- ・缶詰パン ディニッシュメープル味 22 缶
- ・米粉クッキー プレーン・かぼちゃ&人参
ほうれん草 47 個



13、生活福祉資金貸付事業

【財源：県社協受託金】

目的：町内低所得者の自立更生を図る。

内容：実施場所 竹富町全域

実施日時 令和3年4月～令和4年3月

対象者 生活福祉資金長期滞納者、町内生活困窮者 他

事業実績：一般貸付

年 度	償還指導	償還完了	貸付相談
令和元年度	9名（延べ50件）	4名	3名（延べ5件）
令和2年度	5名（延べ6件）	0名	5名（延べ12件）
令和3年度	5名（延べ7件）	0名	延べ（延べ6件）

※令和2年3月25日～令和4年3月25日付

緊急小口資金（特例貸付）

121件 23,850,000円

総合支援資金（特例貸付）

95件 47,540,000円

総合支援資金（特例貸付）延長

50件 25,050,000円

総合支援資金（特例貸付）再貸付

62件 31,650,000円



合計件数 328件 128,090,000円

- ・ 定期的な償還指導、相談対応を行うことで、信頼関係づくりに努めました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により収入減となった世帯を対象に、令和2年3月25日から令和4年8月末まで緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付を実施。
- ・ 担当者だけでは対応が困難な為、事務局職員で相談対応を行い、担当者が最終確認し県へ申請手続きを行い、事務局内で協力して業務対応継続中です。

1 4, 戸別総合相談事業

【財源：会費、寄付金、町補助金】

目的：制度の狭間にある方の日常生活におけるさまざまな心配ごとや、困りごとの相談に応じ、助言や諸制度の紹介、又関係機関等へつなぐ調整を行い、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進を図る。

内容：実施場所 竹富町全域

実施日時 令和3年4月～令和4年3月

- 実施方法
- ① 戸別訪問による気になる家庭への支援
 - ② 民生委員と気になる家庭への同伴訪問
 - ③ 関係機関との情報交換
 - ④ 社協内相談窓口での相談受付

事業実績：

年度	訪問	電話	来所
令和元年度	0名	6名（延べ12件）	0名
令和2年度	2名（延べ3件）	4名（延べ7件）	1名（延べ1件）
令和3年度	1名（延べ2件）	7名（延べ29件）	1名（延べ2件）



- ・傾聴をして、本人の気持ちを整理し不安を少し取り除くことに努めました。
- ・サービスや制度（フードバンク・生活保護）等の情報提供や、電話対応だけでなく、必要に応じて担当者を交えて地区民生委員、福祉支援課、福祉事務所（生活保護担当）訪問を行いました。
- ・地域ケア会議に参加し、関係機関との情報交換、状況把握に努めました。

15、日常生活自立支援事業の推進 【財源：県社協受託金・寄附金・会費等】



<目的>

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方々が地域において安心して自立した生活が送れるように、本人との「契約」に基づき支援する

<内容>

実施期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日

実施方法：判断能力が不十分な方に対し、福祉サービスの利用に関する相談に応じ、及び助言を行い、並びに福祉サービスの提供の提供を受けるために必要な手続き又は福祉サービスの利用に要する費用の支払いに関する便宜を供与することその他福祉サービスの適切な利用のための一連の援助を一体的に行うものである

<事業実績>

1. 相談援助件数累計（問い合わせ・相談援助件数）

単位：件

内 容	本事業の利用に関するもの				合計
	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	不明・その他	
問い合わせ件数	0	0	0	0	0
初回相談件数	1	0	0	0	1
相談援助件数	21	0	0	0	21
合 計	22	0	0	0	22

契約締結件数	0	0	0	0	0
--------	---	---	---	---	---

2. 関係機関連絡会議・研修会等への参加等

(1) 関係機関連絡会議・研修会等への参加等

No	日時	場所	議題・内容
1	4月20日	西表西部	西表西部地区・地域ケア会議
2	5月12日	離島総合センター	西表東部地区・地域ケア会議
3	7月1日	小浜公民館	小浜地区・地域ケア会議
4	8月30日	研修 オンライン	令和3年度 日常生活自立支援事業専門員 オンライン連絡会

5	9月10日	竹富 ZOOM	竹富地区・地域ケア会議
6	10月6日 7日	研修 オンライン	令和3年度 日常生活自立支援事業専門員 オンライン研修会
7	10月14日	祖納公民館	西表西部地区・地域ケア会議
8	10月27日	離島総合センター	西表東部地区・地域ケア会議
9	12月16日	小浜公民館	西表西部地区・地域ケア会議
10	2月3日	研修 オンライン	令和3年度 日常生活自立支援事業実践研究協議会
11	2月21日	竹富 ZOOM	竹富地区・地域ケア会議
12	3月2日	黒島 ZOOM	黒島地区・地域ケア会議
13	3月3日	祖納公民館	西表西部地区・地域ケア会議
14	3月9日	複合施設	西表東部地区・地域ケア会議

(2) 広報啓発活動等

○社協だよりに掲載

○ケア会議、地域住民の集まり等での事業説明 等

<成果>

- ・地域住民の代表者や民生委員等に当該事業についての認知度の向上

<課題>

- ・相談、問合せはあっても、判断能力が低下し自己判断が難しいなど、事業の対象者でないケースや、家族の無関心、本人の無自覚等で進展できずにいる。

<目標>

- ・事業を必要としている人達が制度を知らずにいる場合もある。近隣の住民等見守る人達の中で制度を知っている人がいれば、より支援に繋がりがやすくなる。そのために、事業についてわかりやすいようなチラシ作成や広報に載せる等の定期的な周知活動を行う。

- ・住民の声に耳を傾けながら、課題を拾い、解決に向け、関係機関との連携をおこないながら、島で安心して暮らしていくために、どうしたらいいのか考え、寄り添った支援が出来るように努めていくこと

- ・社協内だけではなく、役場や他関連機関等との連携を行い、日自以外でも可能な限りの支援につなげていけるようにしていくこと

16、生活支援体制整備事業の推進

【財源：竹富町受託事業】

<目的>

単身や夫婦のみの高齢者世帯等が増加する中、医療、介護のサービスのみならず、地域住民に身近な存在である市町村が中心となって、生活支援サービスを担う多様な事業主体と連携しながら、日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を一体的に図るとともに地域における支え合いの体制づくりを推進すること。

竹富町では、この事業体制として、地域包括で生活支援コーディネーターを配置。社協では令和2年度から事業委託し、包括と社協で生活支援コーディネーターを1名ずつ配置し2名体制で実施中。

<実施期間> 令和3年4月1日～令和4年3月31日

<活動について>

- ① 地域資源・社会資源の把握
- ② アンケート調査実施による生活支援ニーズの把握・共有
- ③ 支え合い活動を行う個人、団体の為の情報交換、関係づくりの場を設ける
- ④ ネットワークの構築
- ⑤ 広報活動、その他

<業務内容>

- ① ○地域交流、取材、資源把握 延べ 79回
 - ・体操、サロン、グランドゴルフ等の地域の方が集まっている場への訪問を行う。
 - ・地域の方たちとの交流を通し信頼関係を構築に努め、地域の資源や状況把握に努める
 - ・地域住民への声掛けや気になる方のお宅訪問等、地域資源の情報収集を行う
 - ・近隣の助けが必要な方たちに対して、他機関との連携強化を図り支援○ゆいまーるワークショップ波照間
 - ・第1回目開催 2回目以降はコロナ感染症拡大のため、次年度へ延期
- ② ○コロナ禍における高齢者生活実態アンケート調査実施
 - ・竹富、小浜、西表東部・西部、波照間 個別訪問しアンケートを実施
 - 訪問件数 延べ 30件

- ③ ○黒島ゆいまーるワークショップから発足した「黒島学園」による勉強会
- ・ 4月20日 新型コロナウイルス勉強会 参加者 35名
 - ・ 11月16日 「みんなで行こう！住民健診」教えて松波先生 参加者 27名
 - ・ 黒島学園活動の為の支援、話し合い等 延べ12回
- ナチュラル資源の活動をしている個人、団体の支援
- 個別支援が必要な方への支援
- ④ ○ケア会議
- ・ 東部、西部、小浜、黒島、竹富地区 11回参加
- 関連機関との連携
- ・ 地域おこし協力隊、ケアマネ、運動指導士、言語聴覚士、民生委員等との連携
- ⑤ ○社協便り、チラシ等による広報・周知活動
- ・ 社協便りへの掲載
 - ・ 生活支援コーディネーター関連オンライン研修、研修での事例発表
- CLC（沖縄県生活支援コーディネーター養成研修等事業）、県社協、全社協 10回

<成果>

- ①・生活支援コーディネーターが地域の中をまわっている姿を住民が目にする機会も多くなっており、高齢住民の安心感につながっているという声や、もっと定期的まわってほしい等好意的なお声を頂くことが多くなった。
- ・ 顔なじみになることで、地域の本音を聞く、見る機会が増えた。
 - ・ ナチュラル資源の発掘が増えた
 - ・ 地域から行政に関してのクレームやお叱りの言葉等を頂くこともあったが、新たな気づきとなった。
- ②・アンケートによる訪問では、100歳やサロン等の集まりに参加されていない方との関わりが薄かったが、新たなきっかけづくりとなった。
- ・ フォーマルな集まりだけでは見えてこない住民の生活や繋がりを知ることができた。来島した時に様子を伺いに行ける関係性を一部築けた
- ③・サロンや黒島学園に何度も訪問を重ね地域住民との交流を深める中で、個別支援に繋げるきっかけ作りに役立った
- ・ ナチュラル資源の活動をしている個人や団体との定期的な情報共有や交流を行い信頼関係を深めた
 - ・ WSを通し、課題や現状を知ることが出来た。

④・ケア会議を通して、地域の課題や資源について確認することができた

⑤・研修を通して、SCとしてどのように活動していけばよいのか、他市町村ではどのように活動しているのかということが理解できた

・研修内での事例発表を行うことで、他市町村に竹富町の事を知ってもらうことができた

<課題>

・島に限られた時間しか滞在していない生活支援コーディネーターが地域のことを把握し、地域資源情報を得ていくためには何度も来訪し、直接地域の方々と交流し、信頼関係を築いていく中から、ようやく地域のつながりや情報が得られる場合が多い。限られた時間での資源探しには限界がある。素の島の現状を理解するためには、各島々でのコーディネーターと地域の連携、協働が出来るような環境作りをしていくことが必要。また、島民にとっては当たり前の事が大事なつながりであり、それらが大切なことだと気づかせていくことは地域の意欲や継承にもつながっていく。認識してもらうことも視野に入れつつ活動をしていくことも重要である。

・コロナ感染拡大による緊急事態、蔓延防止宣言が出ていた期間は島民のコロナに対する不安に配慮し、来訪することを自粛。この期間はコーディネーターとしての活動が思うように出来なかった。来訪できなくても、また担当が変更になっても同じような活動が出来るような環境作りをしていかなければならない。

・WSで課題を取り上げているが、以前から地域の課題として挙げられている内容や、福祉ではない課題が挙げられている。他課とも協働、共有していかなければならないと思う。WSで住民が自分の住む地域課題を知り、考え、お互いに出来ることを実践していく良い機会だと思う。

・地域の課題やニーズを知っていくにつれ、どうすれば地域へ活かせるのか試行錯誤している。SCだけでは解決できない事案も多く、多職種、他機関、地域住民との更なる連携が必要である。

17、社協会員募集推進

【財源：寄付金・会費等】

目的：町内地域福祉の積極的な推進における財源確保のため、社協の活動と趣旨を住民に啓発し、会員募集推進を図る。

実施場所 竹富町全域

実施期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

(強化月間 4月～7月)

実施方法 各地区区長、法人等に依頼文書を発送
会員募集チラシの配布

事業実績

(円)

年 度	戸別会員	賛助会員	特別会員	合計
2年度	443,500	81,000	400,000	924,500
3年度	520,050	86,500	451,000	1,057,550
比 較	+76,550	+5,500	+51,000	+133,050

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、いろいろなことが縮小、中止せざるを得ない状況の中、地域・法人・役場等からご協力いただくことができた1年だった。
- ・今年度、小中学校は地域でご協力いただいた学校もあったが、2校ご協力いただけなかった。

《今後の課題》

- ・地域・法人・役場等への声掛けを強化していく。
- ・賛助会員・特別会員の増に向けた取り組み強化。
- ・令和3年度は新型コロナウイルス感染症の流行が収まらない中ではあったが、例年通り周知を行い、区長さんをはじめ皆様のご協力の元、前年度より多くの会費のご協力をいただくことができた。
今年度も例年通り周知を行い、校長会や区長会議等でも声掛けを行うなど、ご協力いただけるよう取り組んでいく。

18. ふれあいサロン事業

令和3年度 竹富町ふれあいサロン事業実績報告書

【事業目的】 住み慣れた地域で、いつまでもいきいきと住み続けられること。地域での楽しみ、生きがい、社会参加を促し「引きこもり・閉じこもり」等、孤立しがちな人たちが気軽に集まれるサロン活動を支援し、楽しく明るい地域づくりに寄与することを目的とします。

【事業実施期間】 令和3年4月1日～令和4年3月31日

【実施内容】

- サロン活動内容
- ①レクリエーション、手工芸
(合唱・踊り・ゲーム・習字・工作等)
 - ②小中学生との交流会 (ふれあいインタビュー・給食交流会等)
 - ③クリスマス会・誕生会
 - ④ドライブ・プチ遠足 (島内)
 - ⑤グランドゴルフ・ゲートボール・ペタンク等
 - ⑥料理教室・健康体操・脳トレ・カラオケ等

- ボランティア支援内容
- ・ボランティア活動保険の周知
 - ・レクリエーション用品の貸し出し・管理
 - ・ボランティア情報交換会の開催
 - ・必要な団体へ他団体主催の助成金の案内・手続き補助
 - ・他必要に応じてボランティアからの相談・調整・支援
 - ・ボランティア支援に関する研修参加 (3回)



あしながおばさんの会・プチ夏祭り (R3.9.)
ボランティアの工夫で楽しいプログラムを実施しています。



ハイビスカスは～もに～・生け花教室 (R3.4.)
社協職員の個人的なつながりで生け花の講師をお呼びすることができました。

地区	実施グループ名	実施場所	実施日	活動時間	実施回数	登録者数	利用延数	ボランティア登録数	ボランティア延数
東部	あしながおばさんの会	離島総合振興センター	第2月曜日	10:00~13:30	9	15	97	11	65
西部	人生ゆいまーるの会	海人の家	第3火曜日	10:30~13:00	12	67	8	22	6
西部	結の会	祖納公民館	第3木曜日	10:00~13:00	10	13	79	8	55
竹富	ほほえみの会	ゆくい処	第3木曜日	10:00~13:00	7	12	65	9	43
竹富	まーまーず	ゆくい処	毎週木曜日 (第3木曜休)	10:00~14:00	25	13	210	4	65
東部	豊原しらゆり会	開拓の里	第2・4土曜	14:00~16:00	18	6	55	2	35
東部	大富 ふれあいサロン	大富公民館	第3水曜日	13:30~15:30	11	11	27	6	42
東部	大原 ぱいぬサロン	大原公民館	第2水曜日	13:30~15:30	10	9	39	4	33
東部	こみゆサロン	美原公民館	第2水曜日	10:00~14:00	12	10	71	7	35
波照間	ハイビスカス は～もに～	ふれあいセンター	月1回	AMorPM2時間	5	12	38	5	7
黒島	黒島 笑いティーサロン	婦人の家	毎週火曜日	9:00~15:00	36	6	202	15	110
	総計				155	174	891	93	496



こみゆサロン・クリスマス料理 (R3.12.)
健康づくり課の栄養士・大濱さんに
恒例となる料理&栄養講話をして
頂きました。



まーまーず・クイチャー踊り (R3.12.)
サロン終了間際に利用者さんの鶴の一声で
みんなで楽しく踊りました。ご飯がとても
おいしくて大好評です。

【事業成果】

- 昨年に引き続き、参加者は毎回サロンを楽しみにしており、ボランティアがサロンの活動内容をその会の特色に合わせて工夫して開催することで、よりよい集まりの場になっています。
- サロン業務を2名で分担し、また社協内・役場との連携・協力体制があったため、各サロンのお祝い・悩み（応援・講師依頼等）により幅広く対応することができました。
- 昨年に引き続きコロナ禍の中の活動でしたが、配食に切り替えたり島内からの参加者に限定したりするなど、工夫をしながら活動することが出来ました。
- 社協で保管しているサロン用レク用品や備品の貸し出しを行い、よりよいサロン活動に協力することが出来ました。
- サロン後、必要に応じてボランティアが主体的に活動しやすいようにミーティングの調整を行ったり、余裕があれば別日に島へ行ったついでに会長宅へ寄りサロンのお話を伺う事で、ボランティアさんの悩みや今後の課題等の確認ができ、関係構築に繋がりました。
- 社協が担当するサロンだけでなく、他のサロン（うふだき会・きりん・すむづれの会）とも関係構築を行う事で、新しい気づきやサロンボランティアさん同士の交流につながりました。
- 小中学生との交流の機会をもつことで、地域で相互に気にかけてくれる関係のきっかけづくりに協力することが出来ました。
- 役場の助成金だけでなく、他団体が行っている助成金を必要なサロンへつなげ、情報提供と運営資金の確保につながりました。



白ゆり会・カラオケ（R3.12.）

活動を始めて11年目ということで
県から感謝状を頂きました。



ほほえみの会・島内遠足（R3.4.）

竹富小中学校の屋上が避難場所に指定されているため、元気な方のみ階段を登って景色を堪能しました。おじい元気！

【課 題】

- 竹富町全域に共通している課題は、現在のサロンに興味がある高齢者・ボランティアは大抵の場合、既に参加されているので、新規参加者の開拓が現状のままだと非常に難しいことです。特にボランティアさんが少ないと深刻な人手不足となり、個人の負担が増えてしまいます。

サロンに参加出来ない（しない）方の理由

- ・活動内容に興味がない又は苦手になっている。
- ・サロンは自分より上の世代が利用するものだと思っている。
(自分が対象者と思っていない)
- ・仕事等があり日程が合わない。
- ・集落内での人間関係のもつれ。

R3.ボランティアさんより情報

- 生きデいの時代から活動しているサロンは、ふれあいサロンになってからの要綱を知らなかったり、昔からの暗黙のルール？（要綱で特に否定していない活動）を大切にする余りサロン活動が苦しくなっていたりするところがありました。中々要綱というのはとっつきにくい印象を与え、理解が進んでいない部分があるようです。
- サロン立ち上げの際、社協（役場）から支給する補助金では運営経費を賄えない場合があります。（赤い羽根共同募金の事業で準備資金を得る方法もあるが、先にサロンを立ち上げてしまうと利用できない。）特に設立したてだと思いがけない諸経費が出てくる場合があります、現状他団体の助成金を頼るしかありません。（確実に補助をもらえる訳ではなく、ボランティアの事務仕事の負担も大幅に増える）それでは会の運営が不安定になるので、サロン立ち上げの際に必要な手順のチャート作成等、分かりやすい情報の周知が足りないと思いました。



大原ばいぬサロン・室内遊び（R3.10.）
折り紙などの工作が得意な西大舛会長から切り絵を教わり、小学校の行事に合わせて展示物をつくっています。



大富ふれあいサロン・島内遠足（R3.11.）
今までは公民館での室内レク中心でしたが、参加者の希望で体操をお休みして遠足を行いました。

【今後に向けて】

社協ができること・できないことは丁寧に説明して理解を頂きながら、ボランティア主体のサロン活動を支援するために寄り添い、課題に対してサロンボランティアさんと一緒に考え改善の道を模索することを大切にしていきたいです。

また、サロンに関する情報の周知努力が足りないと思うので、社協のホームページ開設やSNSの活用等を目指したいです。

令和3年度はほぼ社協が助成金を渡しているサロンの支援のみでしたが、新しい場を増やすことにも力を入れていきたいです。ただし、サロンは今助成金をお渡ししている集まりの場のみがサロンではないと思います。一年業務を担当して、助成金を渡すことはあくまでお金を必要としている集まりの場に対する支援の一つであって、社協は集まりの場のニーズに対して幅広い支援・調整を行うことが重要ではないかなと感じました。

そのため、引き続き社協内・福祉支援課等関係機関との連携を大切にしつつ、既存の集まりの場に対する関係構築と、必要であれば適時その支援を行っていき、同時にサロン事業や人手不足解消のためボランティアに関する情報の周知を行っていききたいです。

ただ、業務が兼任であり今行っている業務をおろそかにすることも出来ないので、出来る事から少しずつ進めていきたいです。



黒島笑いティーサロン (R3.10.)

体操の後のゆんたくの時間。
地域の方が遊びに来てくれます。



結の会・ペタンク (R3.8)

室内で出来、激しい動きのないペタンクが人気です。



社協外のサロンを見学させて頂きました。左上からうふたき会・きりん・すむづれの会

【研修報告】

①研修名：「今さら聞けないボランティア支援の基礎知識

～ボランティアの高齢化からコロナ禍の支援まで～

日にち：令和3年7月30日（金） ※オンラインセミナー

主催：認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会

所感：ボランティア組織の支援のため、基礎知識を固め、今現状でどのような課題が起きているのか把握しようという講座でした。現在、竹富町では、新規のサロンから長年続いているサロンまで、団体のライフステージ「誕生期」「成長期」「安定期」「成熟期」「衰退期」「終焉期」の「終焉期」のステージ以外は各サロンに当てはまると思います。各ステージごとに、どのような方向の支援を大切にしていけばいいのか頭に入れつつ、ボランティアさんとサロンの運営で何を大切にしていきたいのか、どのように運営を続けていきたいのか（終わりたいのか）、話を聞いていきたいです。（参加：伊奈）

②研修名：「ボランティアコーディネーター基礎講習」

日にち：令和3年9月16日（木） ※オンラインセミナー

主催：認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会

所感：ボランティアの言葉の成り立ちやこれまでの歴史を簡単に振り返りながら、ボランティアを支えるボランティアコーディネーターとは何か？を考えていく研修内容でした。ボランティアが行うのは本人が心からしたいと思っで行う支え合い活動なので、強要されて行うものではなく、また、したくないと思ったらしなくてもいい活動だそうです。そんな自由な活動なので、強みと弱みがはっきりしていて、一歩間違うと瓦解しやすいため、ボランティアコーディネーターは、ボランティアの方々でできるだけ長く楽しく活動を行ってもらうためにソフト面ハード面状況に応じて対話を大切にしながらサポートを行うという事でした。

（参加：伊奈・普天間）

④研修名「令和3年度災害ボランティアセンター運営者研修会

～地域と協働した災害福祉支援体制の構築を目指して～

日にち：令和3年11月22日（月） ※オンラインセミナー

主催：社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会

（沖縄県ボランティア・市民活動支援センター）

所感：災害時の福祉的支援の重要点は、住民一人ひとりの主体的な活動で課題や生活再建を目指すのが大切で、それは平常時の社協の活動と同じ考え方です。また、災害時に求められる社協の役割は、例えば地域組織の

コーディネーター・機関や組織の連絡調整など、住民組織や専門機関の活動を支援する間接的な援助と、あくまで平常時の延長線上にあるということでした。災害時に亡くなる方の原因は、地震等で直接的な原因だけでなく、その後の避難生活が原因となることが多いそうです。そのため、社協が行っている日常的な見守り等で、避難生活で支援が必要になりそうな方を把握しておく、実際の被災者支援でそういった情報を元に赤十字社などの支援組織が動いていくそうです。(参加：(廣木)伊奈・普天間)

③研修名：「ボランティアコーディネーター基礎講習」

日にち：令和4年2月24日(水祝)26日(土)27日(日)

※24日のみオンデマンド視聴・土日はオンラインセミナー

主催：認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会
市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会
実行委員会

所感：3日間にわたり、いくつかの分科会に分かれてボランティア支援に関わる事例を学んだり、全国から参加しているボランティア支援に関わる方と小グループになり情報共有や事例検討等のグループセッションを行いました。今回参加した分科会は、「A-1 福祉×地域～ごちゃまぜの世界～」「B-6 団体の岐路に立ちあう中でのコーディネーターの関わりとは?」「C-5 [学ぶ]活動に埋め込まれた「学び」の実践を振り返る」でした。事例はとても刺激になるものばかりで、自分が支援をする際に気をつけること、参考にすべきものがたくさん詰まっていました。グループセッションでは、他の団体の悩みを聞いて一緒になやんだり、自分の支援の悩みについてアドバイスを貰ったり、とても充実したオンラインセミナーでした。(参加：伊奈)

19, 車椅子貸出事業

目的：一時的に車椅子を必要とする人に対し、車椅子を貸出しすることにより日常生活の便宜を図り、その福祉の増進に資する。

対象者：竹富町内に住所を有し、一時的に車椅子を必要とする者。
他、会長が認める者。

事業実績：竹富町社会福祉協議会事務所内車椅子使用車数

令和元年度	4名
令和2年度	13名
令和3年度	6名

車椅子設置場所・台数：

- 竹富町社会福祉協議会事務所 3台
- 波照間島 すむづれの家 3台
- 竹富島 竹富港ターミナル 1台
- 西表島(東部) 西表事業所さみん 3台
- 鳩間島 鳩間港ターミナル 1台
- 黒島 黒島港ターミナル 1台
- 小浜島 小浜港ターミナル 1台
- 西表島(西部) 西部出張所 1台、上原港ターミナル 1台、船浮公民館 1台

計 16台

- ・不定期に車椅子の状況確認を行いました。
- ・車いすの貸し出し状況等により、配置入れ替えを行いました。(全体の数は変化なし)
また、経年劣化により破損があったため、1台タイヤ交換を行いました。



20, 関係機関への参加協力等

目的：ゲートボール大会や研修会の際に職員派遣要請があった場合、参加協力し、イベント運営を支援する。

実施場所：竹富町内

事業実績：

団体名	内 容	内 容	参加協力 人数	開催日	開催場所
八老連	第48回八重山地区老人文化作品展示運営協力	前日準備協力	2名	令和3年 8月14日	・石垣市市民会館 中ホール
八老連	第49回八重山地区老人スポーツ大会運営協力	当日参加協力	2名	令和3年 10月17日	・新川小学校 グラウンド
八老連	第43回八重山地区老人芸能大会の運営協力	当日参加協力	1名	令和3年 12月5日	・石垣市市民会館 大ホール
竹老連	第41回竹老連ゲートボール大会運営協力	当日参加協力	2名	令和3年 11月30日	・竹富町離島復興 総合センター

※新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年参加協力を行っているイベント（障がい者スポーツ大会、やまねこマラソン大会等）は軒並み中止でした。

21, その他

- ・八重山地区社会福祉協議会連絡協議会（事務局・会計）
- ・竹富町民生委員児童委員協議会への協力（事務局・会計補助）
- ・八重山地区民生委員児童委員協議会（会計）

22. 離島等相当通所介護事業・予防介護事業(さみん)

《通所介護とは…》

通所介護は『デイサービス』と呼ばれることが多く、利用している目的は利用者さんにより異なります。デイサービスの主な役割は下記の通りです。

- ・簡単な体操やゲームを通して身体機能の維持向上
- ・脳トレ等を通して認知機能の維持向上
- ・自宅での入浴が困難な方や支援が必要な方への入浴の提供
- ・栄養が考えられた食事の提供
- ・引きこもりの予防と社会参加
- ・利用者さんご本人の息抜き
- ・ご家族の介護負担の軽減

《提供時間と営業日・実施場所・定員》

さみんでは 10:00～16:00 の 5 時間以上 6 時間未満でサービスを提供しています。営業日は各島で異なり、3ヶ所共に 1 日の定員は 10 名 です。

・竹富島(ゆくい処)…月・火・水・金の週 4 日

・黒島(ういぬ家)…月・水・金の週 3 日

⇒ 令和 4 年 1 月より金のみ週 1 回

・西表東部(総合センター老人室)…火・木の週 2 日

⇒ 令和 4 年 2 月より月・火・木の週 3 回

◎地域の方が三線を弾きに来てくださったり、学校や保育所の子ども達が交流に来てくださったりする事もあります。コロナが収束したら、気軽に交流に来ていただきたいです。

《事業実績》

・地区別利用者人数

令和 3 年度 令和 4 年 3 月時点

(名)

	竹富島	黒島	西表東部	合計
事業対象者	0	0	0	0
支援 1・2	1	0	3	4
介護 1～5	6	1	9	16
合計	7	1	12	20

令和 2 年度 令和 3 年 3 月時点 (名)

	竹富島	黒島	西表東部	合計
事業対象者	0	1	0	1
支援 1・2	2	0	7	9
介護 1～5	8	3	8	19
合計	10	4	15	29

・地区別登録スタッフ人数(送迎・調理スタッフ含む)

令和 3 年度 令和 4 年 3 月時点 (名)

竹富島	黒島	西表東部	石垣
9	4	8	4

令和 2 年度 令和 3 年 3 月時点 (名)

竹富島	黒島	西表東部	石垣
8	4	7	5

《成果と課題》

石垣での新型コロナウイルス感染症の感染拡大で石垣市独自の非常事態宣言が出たため、石垣スタッフは島には渡らず現地のスタッフだけで開催してもらう事がありました。その期間は自宅で入浴が可能な方は自宅をお願いしたり、利用回数を減らしてもらったりと、ご家族や利用者さんに申し訳ない気持ちがありました。しかし石垣スタッフは、島に渡る事で菌を運び、利用者さんや島の方に感染させてしまったらどうしよう・・・という不安もあり、この対応になりました。その不安は今も変わらずありますが、各自で感染対策をして毎日島に渡っています。

令和 2 年度と同様、船の減便により石垣スタッフは時間外労働が増えています。石垣スタッフが 7 月に 1 名退職し、有給や代休が取りにくくなりました。また、年度末の 3 月にも 1 名退職したため今年度はさらに取りにくくなっていますが、どうにか休みが取れるように勤務も組まなければいけないと思っています。

【竹富】

利用者人数は入所等で減ることもありましたが、新規の利用者さんも増えています。どの曜日にも定員に数人の空きはありますが、ほとんどの利用者さんが毎回(週 4 日)利用されています。今後も利用者さんが増える見込みはあるようです。

スタッフ人数に大きな変化はなく週 1 回の出勤スタッフもいますが、現地スタッフ同士で休みの調整をする等、連携は取れていると思います。

令和 2 年度に故障していた業務用エアコン 1 機を昨年度中に修理しましたが、しばらくしてもう 1 機が故障してしまいまだ修理できていません。また、令和 2 年度から故障している洗面台の水道 1 ヶ所もまだ修理できていません。どちらも今年度中には修理したいです。

【黒島】

4 名いた利用者さんが夏頃から入院や入所・島外への引っ越しで徐々に減り、11 月頃からは 1 名になってしまいました。そのため、利用者さんやご家族には申し訳ないですが、令和 4 年 1 月からは金曜日のみの週 1 回の開催に変更させていただいています。今後もしばらくは利用者さんが増える見込みはないようで、開催日を増やすことができるのかが課題です。

スタッフに関しては調理スタッフが 2 名・介護スタッフ 2 名の登録がありますが、利用者さんが 1 名になってからは調理スタッフの出勤はなく、利用者さん 1 名に対して 1 名のスタッフで対応しています。送迎や体操・レクリエーション・入浴・食事作り等全てを 1 人でこなし、利用者さんの急変や災害時等何かあった時には 1 人で考えなくてはならないため、常に気を張って仕事をしています。

【西表東部】

令和 2 年度と変わらず定員が常にいっぱいを利用をお待ちいただいていた状態でしたが、令和 4 年 2 月より月曜日を増やし週 3 回の開催になりました。利用者さんやご家族からは増えてよかったとの声ばかりで、増やすことができよかったと思います。

入所等により利用者さんの数は減りましたが新規も入ってきており、開催日を増やしたことで既存の利用者さんの利用回数も増やすことができます。

10 名定員ですが安全に開催することができるよう、最大 8 名での開催で新規の利用者さんは調整させていただいています。全日 8 名に埋まってから、徐々に 10 名へ増やしていきたいと思っています。

スタッフはほぼフルで入ってくれていた方が旦那さんの転勤で年度末に退職したため、今年度はかなり厳しくなっています。

訪問介護ステーションさみん

【事業実績】

令和3年度

介 護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
要介護	9	2	1	10	2	0	24
要支援	2	4	1	0	3	0	10
事業対象者		1		1	0	0	2
合 計	11	7	2	11	5	0	36

令和2年度

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
要介護	7	1	1	5	2	0	16
要支援	1	4	1	1	3	0	10
事業対象者		1		2	1	0	4
合 計	8	5	2	8	6	0	29

障がい者支援

令和3年度

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
利用者人数	0	1	0	2	1	0	4

令和2年度

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
利用者人数	0	1	0	2	1	0	4

竹富町委託事業 障がい者移動支援事業 令和3年度

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
利用者人数	0	0	0	0	0	0	0

令和2年度

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
利用者人数	0	1	0	1	0	0	2

登録ヘルパー

令和3年度

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市	合計
登録ヘルパー数	7	0	3	2	2	0	0	14

令和2年度

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市	合計
登録ヘルパー数	7	0	3	2	2	0	0	14

離島の登録ヘルパーさんの声

西表島

Aさん

訪問は介護の仕事は利用者にとありがとうと言われる事が嬉しくおもいます。
役に立ってるかな？と不安もあるので話し相手、本人は、嬉しいと感じます。

困った事は例で言うと利用者さんが入院した件で、ヘルパーに石垣に付いて行って欲しいと頼まれた事があり、断ったのですがその後がどうなったか心配で誰も居なければ行かないといけないのか覚悟して、車イスで行く場合付添いの手配、サポート車の手配等があり診療所～病院へ紹介手配されてるのか？何時の予約なのか？何時の船になるのか、本人に訪ねるとあやふやな点があり、診療所先生に電話問合せしたり連れて行ける人の心配で焦りました

そんな時ヘルパーは何処までやってあげたらいいのか正直困りました

迷った時しかも大原回りでもあるし

民生員にお願いしたら？とアドバイスしたら直ぐには電話入れてなく後から聞いたらご主人が電話入れて了解取ったようですが、知らずに民生員さんに電話入れてあげたら怒られた事があります。

なぜ貴方がお願いするの？

みたいな事です。

Bさん

訪問介護のよいところ

- ・訪問があるから島で生きていける、1人暮らしも出来ている、出きるだけ長く西表で暮らせる。
- ・体調等、異変の早期発見
- ・衛生環境の改善
- ・周辺地域の方の的確な協力の求め方を伝えることができる。

困ったこと

- ・決まった時間しか訪問に入れない
- ・急遽必要な助けや介護で出来ないことは訪問介護ではなく地域のボランティア的な支え合いになる、ボランティアと訪問介護との線引きが難しい。
- ・早朝夜間の訪問介護士の交代要員がない。
- ・医療的なケアが必要な時に出来ないことも多い

竹富島

●現状

- ・スタッフが自分の体調、副業、介護、子育てなどと両立しており、お互いに補い合っている。
- ・ラインや記録、スタッフミーティングで情報共有ができており仕事もし易い。
- ・医師、看護師との連携がとれている。

●改善したい点

- ・利用者の基本情報（特に病歴、ADL）を確認し易いようにしたい。
- ・土日の要介護者の過ごし方の改善。デイがないため活動がない方や見守りできない方がいる。
- ・ターミナルケアの環境づくりをしたい。特に家族のサポート。
- ・訪問サービス内容に多様性が欲しい。利用者にあったサービスがしたい。
- ・離島への歯科往診。
- ・石垣スタッフの業務負担軽減。少しでもスポットスタッフがサポートできたらと思う。

【石 垣】

石垣からの訪問スタッフが、毎月の県の PCR 検査で陽性となり、結果がわかるまでアチコチの島で訪問を行っていたので、大変でした。

本人も無症状であり、定期検査の結果が出るのが遅く、連絡がきたのが2日後。

島で陽性の知らせを受けたので本人のショックは計り知れないところがあります。

私たちは島にコロナを持ち込んではいけないと毎日気を張っています。

島で買えないものの購入など、買い物支援が増えてきています。

日用品、食品やオムツ類、パンなど様々です。対応が厳しい時もありますが、今後は社協の仕事としても介護保険外で買い物支援ができればよいと思います。

今一度、社協として島の方々に何ができるのか、皆さんと一緒に考えていきたいです。